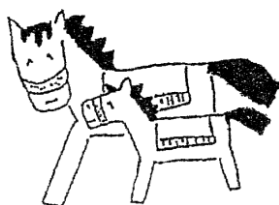


♪
お馬のかあさん
やさしいかあさん
子馬をみながら
ぽっくりぽっくり
あるく

おうまのおやこ

子育ても
あせらず待ちましょ
ポックリ、ポックリと



22年 3月 NO. 184

(厚生労働省・高松市委託事業)

〒 760-0044 香川県高松市御坊町2-2
高松保育園内地域子育て支援センター
TEL:087-821-9347 FAX:087-851-0857
<http://www4.ocn.ne.jp/~kouma/>

～どなたでも～		3月の主な活動		～お気軽にどうぞ～	
3月 3日	水	ひなまつりにおいで 10:00～11:00	子どもの成長をお祝いしましょう。		
3月 6日	土	体験保育 10:00～12:00	同じ年齢のクラスに入って みんなと遊びましょう。		
3月 6日	土	実用筆書き講座 14:00～16:00	日常生活に役立つ講座です。 どなたでもどうぞ。		
3月 12日	金	おはなしの会 10:00～11:00	いつも楽しくおもしろいお話が いっぱいです。		
3月 13日	土	木工教室 14:00～16:00	木製品の修繕もできます。		
3月 20日	土	体験保育 10:00～12:00	出産予定の方も子育て体験に おいでください。		
3月 24日	水	香川みすゞさんの会 14:00～16:00	絵本「ぼくはおっぱいレンジャー」 の絵担当の森田さんに絵本のことや 国際交流についてお聞きします。		
3月 30日	火	健康・育児相談 11:00～12:00	小児科園医師にゆっくり 相談できます。(予約要)		
<ul style="list-style-type: none"> ・毎火曜日 園庭開放(13時～16時) ・上記の活動日以外は13時～18時まで地域開放します ので、親子でご来園下さい。 (但し、月・日曜・祭日は休み) 		育児相談(月～土) 9:00～18:00 しつけや子育てについての悩み、 保育園生活、入園・見学について の相談もどうぞ。			

ちいさい二葉を待ちましょ。
ふたば
 さみしくつてもがまんして、
 お庭のすみに埋めましょ。
 たった一つの人形だけど、
 ちいさか埋めた種からは、
 ちいさい桃の木生えましょ。
 秋にやかわい人形が生って、
 町じゅうの子供にひとつづつ、
 木から木が生えるから、
 人形の木が生えるから。

金子みすゞ全集5
さみしい王女・上より



ニュージーランドでの子育て そのI

人口430万人の農業国 ニュージーランドでの出生率は2.17（日本は1.32）で妊娠期から家族を支え、幼児教育に力を入れており、出生率は上昇傾向にあります。今月から3回にわたり、ニュージーランドの子育て事情についてご紹介します。

産前産後 無料一貫ケア

ニュージーランドでは、妊娠から出産、産後数週間まで一貫して、リード・マタニティー・ケアラー（LMC）がケアをしてくれる。担当するのは家族医か産科医、助産師で、約8割は助産師が務めている。妊婦健診や出産にかかる費用は原則国が負担してくれるため、無料だ。

「胎動は感じない?」「腸で泡が動いたような感じはあるけど・・・」「それよ!」3月下旬、ブドウ畑が広がるニュージーランドの地方都市ブレナム。妊婦健診で自宅に来た開業助産師シャーリー・ウィバーさん（48）の言葉に、妊娠6カ月の松下由佳さん（31）はうれしそうに笑った。

老人ホームに勤める松下さんは、妊娠がわかると、地元の助産師協会に電話してシャーリーさんをLMCに選んだ。健診は自宅、検査は病院で受ける。陣痛が来たら一緒に病院に行き、病院の助産師の手と設備を借りて出産する。異常が起きたら、医師が駆けつける。

「仕事をしているので自宅健診はありがたい。出産も介助もしてもらえるから安心」と松下さんは言う。

シャーリーさんは20年間看護師を務めた後、3年間専門学校で学んで助産師資格を取った。「子どもと家族の面倒をみるのが好きなんです」

助産師は正常産だけ扱うが、日本と違って単独で点滴や薬剤が使え、免許や必要な技術も毎年更新する。シャーリーさんは妊婦5、6人を常に担当し、去年は3人の自宅出産を介助した。人口3万人弱のブレナムには助産師が8人いるが、出産ラッシュで数が足りないという。日本と同じく、「団塊ジュニア」の世代が出産期を迎えているとシャーリーさんはみる。

「夫が大柄なので赤ちゃんも大きく難産かも」「妊娠中毒症が心配」といった松下さんの不安は、尿検査、血圧測定、胎児の心音確認といった約1時間の健診のやりとりの中で解消された。「何かあればいつでも電話してね」と言ってシャーリーさんは帰った。総計80万円ぐらいかかる健診費も出産費も原則自己負担は無い。2年以上働いていれば、移民でも国の補助対象になる。

LMCのシステムは96年に始まった。助産師歴30年という健康省のブロンウェン・ペルビンさんは「医療主導でなく、家庭的なお産を望んだ女性たちが、80年代に声を上げたのです」と話す。

07年に実施した調査で90%の女性がLMCシステムに満足と答えた。自宅出産は5%で、そのほかは正常産を扱う産院や設備の整った病院での出産だ。「安全性に問題はない。出生率が予想外に上がり助産師が足りず、正常産が高度な医療機関に集中し負担となっている」という。

民間運営 全国に支援網

首都ウェリントン郊外にある「プランケット・ファミリーセンター」は普通の一軒家だ。母乳が出ない、赤ちゃんが夜泣きするといった悩みを抱えた母親が次々訪れる。

週3日勤務する看護師のウェンディ・ロズベアさん(61)は、赤ちゃんの抱き方を教え、昼間母親も赤ちゃんと一緒に寝ることを勧める。センターでは助産師や病院からの引き継ぎで新生児の家庭訪問もするし、乳児健診も担当する。

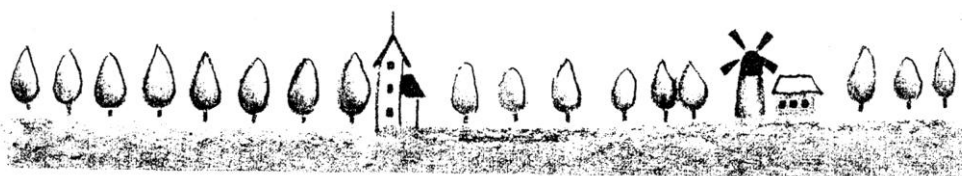
運営するプランケット協会は、約100年前に、1人の医師が始めた民間団体だ。いまは全国300カ所にこうした施設を持ち、800人の看護師やヘルスワーカーらと8千人のボランティアが働く。乳児健診は政府の補助金による委託事業だが、企業や個人の寄付による自主事業もある。国内で生まれる赤ちゃんの9割にかかわるといふ。

夫の転勤に伴い去年ブレナムに引っ越したジャニーン・ミルズさん(36)は4歳の娘を出産したとき、産後うつになった。訪問してきたプランケットの看護師がその様子を見て、家族支援の民間団体「バルナドス」や自助グループを紹介してくれた。

育児につまづくと、3年間ほど月1回ケアワーカーが自宅に来てくれた。月齢ごとの子どもの発達の特徴を教えてくれるほか、相談にもものってくれた。政府が民間に委託する事業ペアレンツ・アズ・ファースト・ティーチャーズ(PAFT)プログラムだ。

「どう育てればいいかがわかり、とてもよかった。初めての子を持つ人すべてが受けるといいと思う」。昨年第2子を出産したが、やはり精神的に不安定になったのでバルナドスの世話になった。転勤族で友人もなく孤独だったが、娘が幼稚園に通い始めて母親友だちもでき、育児は軌道に乗り始めた。産後に受けた乳児健診やプログラムは無料だった。

健康省は妊婦健診や乳児健診、福祉省はPAFTや、低所得層向けのファミリー・スタートといった家族支援プログラムに費用を出し、担い手は民間団体だ。「ないものは自分たちで作る」開拓の歴史が背景にあるようだ。



封筒を使ってリアルに…

かぶとを作ろう

子どもの身に災いが降りかからず、たくましく育ってほしいことを願って。

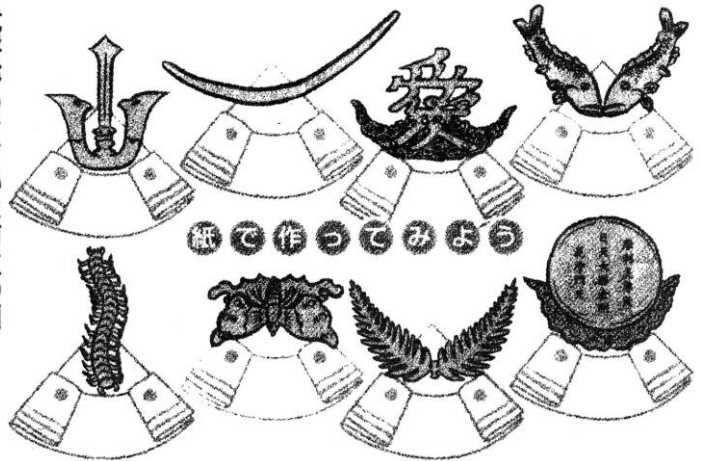
かぶとは、頭を保護するヘルメット部分の「鉢」と首周りを守る「しころ」が基本。正面に、直江兼続の「愛」一文字が有名になっている前立を飾る。

かぶとの飾りは時代で変化している。折り紙かぶとで表現する2本の角のような前立は「くわがた鋏形」。平安時代に始まり、南北朝のころに流行した。

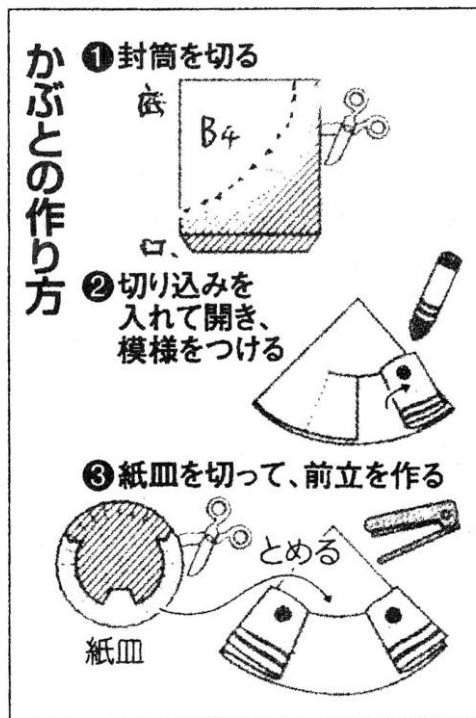
室町時代には剣の形や、日輪、木の葉形など派手な前立が登場。戦国時代では、伊達政宗の細長い三日月などが有名だが、葉（敵の刃）を食う毛虫をあしらったものもある。

鉄製の鉢の外側に紙や木を素材に造形して飾り立てた「変わり鉢」も作られた。

武将がつけていた前立の例



紙で作ってみよう



①封筒の底の1角を中心点として、底辺を半径にした $\frac{1}{4}$ の円の形(扇形)に切り取る。コンパスで下書きしても、だいたいの目分量でも、お好きに。

②扇形の外周の中心点から角に向けて、半径の半分ほど切り込みを入れる。さらに切り込みの奥から左右に5-10mm切り込みを入れ、左右に開けば、鉢・しころ部分の出来上がり。クレヨンや絵の具で色づけしたり、カラフルな折り紙を張り付けて模様をつける。家紋や、動物の顔などオリジナルの紋を描いても楽しい。

③ボール紙などで、自分好みの前立を作り、ホチキスで留める。きむらさんは紙皿を使い、周縁部の模様を生かした前立を一例として紹介する。

著書